

平成26年度 JCOMM賞の受賞者発表



JCOMM実行委員会では、平成26年4月11日までにご応募・ご推薦をいただいた取り組み・研究について、厳正に審査し、プロジェクト賞3件、デザイン賞1件、マネジメント賞1件をそれぞれ平成26年度JCOMM賞として選定いたしました。対象者には、第9回JCOMMにて表彰を行います。また、会期中には受賞内容の展示も行われます。

JCOMM AWARD プロジェクト賞

- 「阪高SAFETYナビ」の普遍化による総合的な事故削減を目指す取り組み
(阪神高速道路株式会社、阪神高速技研株式会社、株式会社交通システム研究所)
- 「明石市Tacoバス:PDCAによる100万人までの軌跡」
(兵庫県明石市土木交通部交通政策室、株式会社建設技術研究所大阪本社道路・交通部)
- 「大学生による交通まち育ての挑戦」
(H・O・T Managers)

JCOMM AWARD デザイン賞

- 「日立電鉄線跡地を活用した『ひたちBRT』におけるデザインツール群」
(ひたちBRTサポーターズクラブ、日立市、日立電鉄交通サービス株式会社、山本早里)

JCOMM AWARD マネジメント賞

- 「小学校における札幌らしい交通環境学習推進事業」
(札幌らしい交通環境学習検討委員会、札幌市市民まちづくり局総合交通計画部都市交通課、一般社団法人北海道開発技術センター、株式会社アドバコム、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

JCOMM賞についての情報は、HPにも掲載しております。
各賞の概要や評価基準・詳細等はHPをご覧ください。
(<http://www.jcomm.or.jp/>)

第九回JCOMMは、帯広市にて、七月二十五日(金)、七月二十六日(土)にとちかちプラザ(レインボーホール他)で開催いたします。帯広市は、二〇〇一年度から公共交通を活性化させる計画を策定以来十年以上に渡り、継続的

に、バス事業者、民間事業者、行政が連携して、路線バスの利用促進活動を行っております。皆様のご参加をお待ちしております。また、昨年度と同様に、今年度のJCOMMは、土木学会CPD(継続教育)プログラムとして



日本モビリティ・マネジメント会議
ニューズレター

Vol.32 ● 2014.6.30

【発行】 JCOMM実行委員会
ニューズレター編集部
【お問合せ】 筑波大学 谷口綾研
愛媛大学 松村研

mail: info@jcomm.or.jp

MMIに関連する会告掲載希望やご意見等、
随時受け付けております。

て申請し、認定を受けました(両日参加の場合十三・五単位)。ぜひご参加の上、MMの情報交換の場としてご利用ください。

参加申込方法

- 1) 氏名、2) 所属/勤務先、3) 連絡先(住所・e-mailアドレス)をJCOMMホームページ上の参加申込フォームより送信してください。

▼参加費(資料代含む) 三千元



第九回 JCOMM in 帯広 プログラム

● 1日目 7月25日(金)

10:00-12:00	開催地企画「地域交通シンポジウム in 北海道」
12:00-13:00	昼食・休憩
13:00-14:10	パネルディスカッション 「地域を支える交通! ~地方バスの役割と今後の展望~」
14:20-15:00	オープニングセッション 挨拶・開催地プレゼンテーション・JCOMM 賞授賞式
15:05-16:15	ポスター発表 A
16:15-17:15	口頭発表 1「エモーショナルプロジェクト」
18:00-	意見交換会(懇親会)

開場時間中、平成26年度JCOMM賞受賞者の展示も同時に行います。

● 2日目 7月26日(土)

09:00-10:00	口頭発表 2「戦略的な公共交通 MM の展開」
10:00-11:00	企画セッション「MMと健康(医工連携)」
11:10-12:10	企画セッション「MMを後押しする政策・制度」
12:10-13:30	昼食・休憩・総会
13:30-14:40	ポスター発表 B
14:40-15:40	口頭発表 3「安全・安心社会に向けたMMの可能性」
15:40-16:00	クロージングセッション

開場時間中、平成26年度JCOMM賞受賞者の展示も同時に行います。

● 3日目 7月27日(日) 現地見学会(十勝バス&十勝シーニックバイウェイ見学会)

帯広駅前 8:45 集合、帯広駅(15時)・帯広空港(15時40分)解散予定、参加費:4,000円(要申込)

イベント報告 欧州モビリティ・マネジメント

会議報告

二〇一四年五月七日～九日、第十八回欧州モビリティ・マネジメント会議がイタリアのフィレンツェで約二七〇人の参加を得て開催されました。

オープニング・セッションの前、初日の午前中はテクニカルツアーが開催され、トラム・歩行者自転車道・ジョギング・歴史的地区・中央交通管制システムなどを巡る五コースから一つ選ぶことができます。

そのうち、筆者が参加したフィレンツェのトラムシステム探索コースについて紹介します。

フィレンツェ市では、イタリア国鉄フィレンツェ中央駅から放射状に三つのトラム路線を、計画しています。このうちスキヤンディチ地区に向かうライン1のみ二〇一〇年から供用されており(写真①)、利用者は順調に増加しています。



(写真①)

トラム利用者の七割は、路線バスからの転換ですが、自家用車からの転換も、約十五%となっています。実はこの路線の計画・建設時、供用予定の沿線地域では自動車用の車線が減ることから、トラムに反対する意見が根強くあつたそうです。しかし供用後は、トラムの利便性や地域のシンボルとしての可能性を知り、多くの人がトラムに満足しているとのことでした。



(写真②)



(写真③)

このトラム車両には、オフ・ピーク時に前方に自転車置き場があるスペースがあります(写真②)。前方の壁に固定するためのベルトもついています。テクニカルツアーのよさは、開催地の様々な事情の知識を得ることだけで無く、開会前にツアーに参加することで他の参加者と仲良くなれること(写真③)だと再認識しました。

「持続可能な交通手段に興味があるにも関わらずクルマを使う人が多いのは良質なインフラ整備が不足しているから。まずはインフラ整備が重要だ」との結論だったので。我が国のMMは、心理学的知見をバックボーンとして発展してきたため、MMとインフラ整備、料金施策等をバランス良く組み合わせることが重要であることが常識となつていきます。MMだけでなく様々な交通施策の発展の歴史は国によって異なるため、前提も異なることをひしひしと感じました。

また、感情(エモーション)の重要性を訴える発表もいくつかありました。心に響く動機付けとして、MMキットの美しいデザインや、ユーモアあふれるキャンペーンは重要ですが、日本ではなかなかコストを割きにくい部分でもあります。良質な事例を積み重ねていくことで、その効果のエビデンスを示していきたいと思えました。

第十九回ECCOMは、二〇一五年五月二十日～二十二日、オランダのユトレヒトで開催されます。



JCOMM法人会員紹介 Vol. 15 社会システム(株)

社会システム(株)は、鉄軌道・道路・バス・航空の各交通計画や都市交通・幹線交通の総合計画に関わる専門コンサルタントとして、交通分野の視点で地域貢献を目指している会社です。

交通分野における総合力を活かして、地域の特性に合わせた公共交通システムの構築などの事業に取り組んでいます。

弊社のMM関連事業としては、公共交通利用促進のプロジェクトを中心に取り組んでいます。

① 秩父市の事例

秩父市のプロジェクトでは、観光渋滞問題の深刻化から、紅葉まつりの時期にパーク&ライドの実証を行いました。

利用者には、秩父一体で採掘されたという和銅開珞を模した共通商品コインを進呈する等の利用促進方策を併せて実施したところ、高い継続利用意向が得られ、交通行動変容の意識付けを試すことができました。

② 我孫子市の事例

また、我孫子市では、コミュニティバスの利用促進として再編やサービスの向上のあり方を、住民ワークショップ開催を通じて参加住民に意識付けする等に取り組ましました。

今後も、地域の実情のきめ細かい分析から、総合的な交通のあり方まで、地域の多様性に応じた交通のまちづくりを提案してまいります。

